

EX 182

34

動 く 満 蒙

松 岡 洋 右

485-1

一、第一に日米關係に付て御尋致します。日米國交の益々親善ならんことを冀ふに於て、私は幣原外相に敢て諫るものではない。又近年日米關係は敦厚の度を加へて居ると云ふことも事實でありまして、特に慶賀に堪へないと思つて居ります。(「そんなら質問することは要らないではないか」と呼ぶ者あり)然るに茲に洋に憂慮に堪へない事象が発生した。凡そ國交は唯一方の好感を買つたり、一方の感情が好いと云ふだけで健全に親善提携が永く保持せらるゝものではないのであります。

(一〇六頁)

二、 満蒙は我國の生命線である

満蒙問題を論ずるに當つては先づ以て満蒙そのものに對する明確な觀念の把握が必要である。

第一に、満蒙に我國が牢固として抜く可からざる勢力を扶植したのは、決して侵略によるものではない。支那が我國と重大なる關係にある朝鮮の獨立を脅威した爲め日清戦争の止むなきに至り、次いで大潮の決するが如く南下するロシアによつて再び我國の存立を脅かされたるがため、日露戦争となり、其の結果戦局の有利なる結了によつて、賠償金の一部とし

てロシアの滿蒙に於ける權利を引継いだのである。
能く世人は滿蒙に於ける特殊權益と云ふがその權益
とは果して何を指してゐるのか、人によつて一致せ
ず又漠然たる觀念を持つてゐるが、私の観る所では
一つは我國の國防上の安固を計る上に於て、之を支
那に任すことが出来ないと言ふ理論ではない實際問
題に、この權益は胚胎してゐるのである。日露戦争
は如實にこれを物語つて居り、更に其後の支那の事
態とロシアの形勢がそれを明白に裏書きして居る。

其後我國は滿蒙開發に甚大なる力を致し、滿鐵の投
資と、滿鐵外の投資とを併せて既に大約十七億圓に
達し、世界に於て、今日滿蒙問題が喧しくなつたの
は主としてこれを我國が開發し、世界的にその價值
を認められたからに外ならない。

支那人としては申し分もあらうが、我國と滿蒙との
關係を冷靜に考へれば、國權を不當に犯すものゝ如
く妄想して我國を驅逐しやうなぞとは以ての外であ
る。支那人でも少し物の判る人達には其の誤謬は直
ちに首肯される筈である。實は今日支那が滿蒙に注
目したのは、我國の開發に刺戟せられたからに外な
らないのである。

然し今日の滿蒙の地位は我國にとつては單に國防上
重大なるのみならず、國民の經濟的存立に缺く可か

らざるものとなつて居る。換言すれば、現實問題として見る時、滿蒙は我國の國防上のみならず、經濟的に見ても我國の生命線とも云ふべきものとなつて居るのである。何れの國に取つても其の存立の要を握る生命線はある。英國のジブラルタル、マルタに於ける如く、國家の存立上其れ以上退却出來ぬ重要點は必ず存在するのである。

今議會、私が滿蒙政算を論じ特に生命線云々と云つたのはこの點であつて、國民はこの意味をはつきりと把握しなければならぬと思ふ。二十萬の在留同胞とか又は滿鐵の在存とか、我國より聊た滿蒙問題の總べてではない。夫れは固より重要事項ではあるが夫は唯だ問題の重要性を増す事柄と云ふに過ぎない。今日の我國の國際關係に省みる時、又我國の經濟生活に鑑みる時、便へ滿蒙に一人の日本人なくとも、又一厘の投資なくとも、更に吾々の熟知する歴史的關係なくとも、滿蒙は我國にとつて重大なる關係にある地域である根本に變りはない。即ち私の云ふ我國の生命線なのである。況んや多數の在留同胞と巨額の投資に加ふるに血を以て彩られた歴史的關係あるを思ふ時、益々我國の生命線である點に於て、これをしつかり確保し死守するについて、何國何人にも俾る必要のないことは明かである。

支那人の中には我國の滿蒙への進出に對し、不平を抱く者あるも、歐米諸國に於ては我國の正當なる進出に對し異議を唱ふるものなく、明かに支那を除く以外の國々はこれを是認してゐるのである。問題となつてゐる米國の態度に就いても、世間で誤解してゐる如く、滿蒙問題に絡つて我國と戦ふなぞと考へて居る頓狂人は一人もないと云つても過言でない。

英語の諺に曰

と云ふことがあ

る。これは我國で「お前の頭の蠅を逐へ」と云ふ事であつて、米人氣質の一面を最もよく現してゐるものである。即ち滿蒙に於て我國のなすことは米人の知つたことではない。餘計なことを云ふな「それよりも米人は須く御自身のなすべき事をしつかりおやりなさい」と云ふ事は、これを米人に卒直に云へば直ちに了解する國民である。

だからと云つて滿蒙に於て勝手にやれ、と云ふのではない。私の云はんとする所は正當なる事をなす以上日本は米國其他に何等憚る必要はない、又それは彼等にはよく了解されることであると云ふ意味である。もとより滿蒙開發に當つて三千萬の支那人を無視することの出来ないことは云ふ迄もない。飽くまで其の了解を求め、これと提携し共存する意味に於

て進まなければならぬ。而して私は自ら滿蒙の第一線にあつて長年働き、これを實現せんと最善の努力をなしつつあるものであつて、私の意圖する所は支那側が一番よく了解して居ることゝ信じて居る。然るに現内閣の滿蒙は我國にとつて、以上の如き明白なる立場を有するに拘らず、滿蒙の現場に於て、又滿蒙問題に關し、宛も何人かに悔るものゝ如き態度を取りつつあることは遺憾に堪へない。今日迄我國の取り來たつた態度は寧ろ挫へ氣味であつたと思ふ程であるに拘らず、現在我國の滿蒙に於ける外交は更に氣合負けと位負けをして居る。これを建直さなければ駄目だと云ふのが私の主張である。斯く云ふからとて拳固を振廻す者は却つて卑怯者である。勿論我國の滿蒙に於ける施政に就いて神ならぬ以上時々失敗のあるのは已むを得ない。又滿蒙現場に居る同胞中にも吾々の誇り得ぬ分子も存在し、我國の反省しなければならぬ點もある。併し近年に於ける日支兩國間の行詰りの最大原因は、即ちこの外交上に於ける位負けと氣合負けである。従つてこの點を建直さぬ以上種々の技巧や小手先の細工を弄しても斷じて打開することは出来ない。この點に關して私は今議會に於てのみならず、尊敬する先輩として、幣原男に再三卑見を披瀝した。一日も早く國家のた

485-6

めに反省せられんことを祈つて居る。これが現在に於て滿蒙問題行詰り打開の唯一の道である。斯く云ふからとて、直ちに支那人を威嚇せよと云ふのではない。私は二十七年間支那人と往復交渉した關係より充分彼等を理解し、眞に衷心より彼等の利益を増進せんとして居る點に於ては何人にも譲るものでない。例へば支那に於ける治外法權撤廢、關稅增收等に就いても、日本人で最初にこれを唱へたものは私であつたと思ふ。こう云ふこと、又私の考へ、態度は支那有識者の最もよく理解して呉れる所であると信じて居る。

三

次に我國民のはつきりした信念を持たねばならぬ。作の主要なる點は、私が永年これを唱へ、滿蒙問題研究の結晶として居る東三省、即ち今日の東北四省（熱河省だけ増加）と東部內蒙古の地域の開發、安定を計ることである。これが窮極に於て支那問題の眞の解決をなすものであると信ずる。我國の國防上、經濟上の生存權を主張する上に於て、これが最少限度の要求であり、換言すれば、我國の眞の安泰をもこれによつて決し得るものである。更らに朝鮮問題の將來を想ふ時、これ又東三省及東部內蒙古の問題解決によつて眞の解決をなし得るものであるとの信

485-7

念を抱いてゐる。斯く考へ來ると東三省及東部内蒙
古の問題がやがて極東の大局を決定するものであり
今日世人の云ふ滿蒙問題は實に極東全局の鍵である
との信念を抱いて居る。

更に一步を進めて理想を云へば、平面的の歐洲文明
に對立して居る立體的の東洋文明こそ、人類永遠の
幸福を表徴して居るものであり、而してこの東洋の
立體的文明を復興し、擴大して世界人類をしてその
恩典に浴さしめ、其の福祉を増進せしむる使命を預
つて居る者は日支兩國民であり、其の光輝を發揚せ
しむる地畝は實に滿蒙であると信ずる。

更に一步を進めて理想と云へば、平面的の歐洲文明に
 対立して居る立体的の東洋文明こそ、人類永遠の幸福を表
 徴して居るものであり、而してこの東洋の立体的文明を復興し、擴
 大し世界人類とととの思典に浴とし、其の福祉を増進せし
 むる使命を負つて居る者は日支兩國國民であり、其の光輝を榮
 揚せしむる地域は實に滿蒙であると信ずる。

これは或はエトピアの夢多相の様に思はれるが、この點
 に關し、私は滿蒙過去の歴史を檢討し、我が大和民族と如實
 の關係等に就て淺学ながら相當の研究をなし、滿蒙の緯
 度、氣候、風土等に就いてこれを考へ、又世界人文史上の史実
 と對ねたる結果、斯くの如き大胆なる結論を下し、それを私
 の滿蒙に對する窮極の最高目標とて居るのである。私は國
 民が滿蒙問題と考へる時、これを極東の大局と決定する鍵
 であると云ふことを強く意識し、更に述べた如き理想と併せ考
 へんことを希望する次第である。前者は實際政治の範圍で
 あり、後者は理想に屬するが、この二つを併ねて滿蒙に對する
 我國の態度を明かにし、から信念に基く確固たる主張を負く
 ことに、全幅の力を注がねばならぬと私は思ふ。

外交は單に日に起る普通の國際事務を處理することを本質となすべきでない。そんな事は事務局を以てすれば足りる。何れ大きな外務省は必要とする。眞の外交は我國にとつて最も重大なる死活問題である滿蒙問題の如きにつて其の意義を明らかにし、これに対する大方針を樹立し、我國民をして向ふ所を知らしめ、且つ世界の形勢も我が國是に順應せしむる様努力することである。 (昭和六年四月稿)